

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172100832
法人名	社会福祉法人 大東福祉会
事業所名	大東グループホーム
訪問調査日	平成 19 年 8 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2172100832
法人名	大東福祉会
事業所名	大東グループホーム
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1 (電話) (0584-82-1600)

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(19年 7 月 記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日			
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人	
職員数	20 人	常勤15人	非常勤5人	常勤換算15.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	1,000円			

(4) 利用者の概要(5月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	14 名	要介護4	3 名		
要介護5	— 名	要支援2	— 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	61 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大垣市民病院 中央病院 富田内科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は自己評価を通して10か条の取り組みをするとともに、毎月の勉強会や施設外研修へ参加するなど資質の向上に努めている。三つの安(安心できる生活、安定した環境、信頼できるサービスを安価で提供)を基本として在宅福祉の拠点を目指し早くから活動してきた。子供110当番やカルチャーセンターでの介護予防教室、各種カルチャー教室、西濃地区のグループホーム協議会等開催している。また、防災に関しては消防署の協力で近隣の住民に声をかけ、救急法の講習や避難訓練等年2回実施している。また、利用者とのコミュニケーションや職員同士の話し合い、ケアカンファレンスへの家族の参加を重視し、アセスメントを充実することによってケアプランのとりくみに反映している。一方、夜間入浴を実施するために勤務シフトを工夫し二人体制にするなど、利用者一人ひとりの希望や生きがいを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果は玄関に掲示公表している。要改善点は特になかったが、この一年はケース会議への家族の参加の働きかけ、注意の必要な物品の保管方法などへの配慮や、災害に備えた取り組みにも心がけてきた。夜間入浴や温泉入浴の取り組みで利用者の楽しみを拡大してきた。また、利用者の生活歴から、美化活動も重視してきた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連科目:外部4)</p> <p>自己評価に関してはすべての職員が意義を理解し、ユニットリーダーを中心に振り返りの機会と捉えて十分に意見交換をしながら改善に努めている。また、各ユニットごとに大東10か条と関連させながら自己評価を活かしているため、各ユニットの特徴も見られるようになってきている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議は、関係者の参加を得て定期的の実施され、会議の内容に関して常に積極的な発言がある。ホームからは介護予防に関する説明、カルチャー教育の内容の紹介などカルチャーホールを利用の推進を図っている。運営推進会議の話し合いからホームの行事や地域行事への協力もあり、利用者や家族もともに参加する機会となっている。運営会議の意義は重要であるが、家族からの意見・要望の機会が少ないのが今後の課題である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には担当者が毎月手紙で状況を知らせているが、訪問時には必ず声がけし意見や不安など傾聴するという意識を高める姿勢をこころがけている。要望や意見はすぐに会議にて検討し解決して返答するよう心がけている。更に家族会の発足につなげ、より多くの家族の意見の反映や協力を得て、利用者の生活の充実に向けホームの運営を強化したいと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日々の暮らしの中で、近隣の住民や子供たちがテラスにベンチで過ごしなが、朝夕会話を楽しんでいる。運動会や町内清掃、防災などの地域行事にはできるだけ参加している。また、夏祭り、餅つき、演奏会、介護予防教室などのホーム行事の呼びかけや保育園の発表会、親子のふれあい、英会話などホームのカルチャーホールの開放等、地域住民の一人として、利用者も共に参加するなど、地域に密着したサービスを実践している。また、子ども110当番の窓口になっており、学校の道路マップにも掲載し協力している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念である[地域社会への貢献]という取り組みの成果もあり、地域における認知度は高い。理念を具体化した目標である”三つの安”(安らぎ・安定・信頼(安価))を掲げ、在宅福祉の拠点として地域密着型サービスを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有の具体化として職員全員の意見を集約して大東10か条を作成し、常に原点に戻るよう心がけている。また自己評価を実施しコメントをつけて出勤表とともに提出して、理念の共有と自己啓発に努め常にケアを振り返り話し合いをしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	カルチャーホールを開放して認知症に関する講習等介護予防教室を開催するなど地域に貢献している。管理者は市が企画する講演会の講師も行なっている。地域行事や溝清掃も参加している。テラスは日常的に地域の憩いの場となっている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価等の結果を踏まえて玄関に掲示して公表している。また職員同士は連携をとりながら積極的に意見を伝え合っている。特に担当は職員の意見を取り入れ、その人らしい生活の維持ができるようにしている。自己評価のチェック表があり、管理者のアドバイスもある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催であり、地域の民生委員、自治会長、福祉課職員、家族等が困難事例を一緒に考えている。福祉推進委員の協力でいきいきサロンの開催などの意見もある。通常のメンバー以外に看護師やユニットリ-ダーも参加している。		運営会議はすでに家族も参加しているが、家族の代表者のみにとどまらず、他の家族も参加できるようにし、いろいろな意見や要望を出しやすいような雰囲気作り心がけられることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2カ月に一回介護予防教室を開催をしている。広報では在宅介護支援センターが中心となり、医師の講演などへの参加も呼びかけている。市からの受託事業として空床ベッドを利用して認知症高齢者短期事業に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報「なないろ」とともに担当職員が家族との連絡を密にし、面会時はアルバムで日常や行事の様子を報告している。家族からもお礼の手紙を頂いているが交換日記等も検討している。金銭管理も毎月報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情には即時対応できるシステムをとっており、公開や処理方法を徹底している。また、傾聴するという意識を大切にしながら、苦情に対しても職員会議などすぐに開催し解決に努めている。		家族との信頼関係は非常に厚いが、更なるケアの向上に向けて、家族会の発足が望まれる。行事の企画などの協力を含め利用者や家族の意見や要望など把握する環境を作り、サービスの充実につなげられることを期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4・10月は定期異動があるが、職員の希望を取り入れながらできるかぎり最小限にしている。人事はリスク管理面など十分考慮して行なっている。また、管理者と医務は常に職員の精神衛生面には配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人の合同の勉強会や委員会の学習会を開催している。研修については、レポートを提出し会議で報告している。また、自己研修としての目的を持つことを奨励し資格取得希望者にはできるだけ配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西濃地区のグループホーム協議会の勉強会をカルチャーホールで開催し、困難事例や情報交換をしながらサービスの向上につなげている。		現在すでに相互訪問など行なっているが、今後は更に視野を広げ他施設訪問をはじめ、さまざまな機会を通じて認知症ケアの質の向上につなげていくことを期待している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本体施設との連携で本体のショートステイを利用しながらのホームの見学や、日中家族とともに数時間の利用で過ごすなどの体験入所を実施している。相談の段階であっても、利用者の状態に合わせて墓参りや畑を見るに行くなど、家族と協力して利用者が馴染めるよう配慮している。また、施設見学はいつでも可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「昭和のレトロ展」の見学時、利用者の生き生きした説明とその姿から職員も多くを学び、ケアにつなげている。また、夜勤体制を工夫したことで利用者とうっくり向き合える時間でもでき、利用者の想いを引き出すことができている。職員は日常生活を通して信頼関係を深めているが、「利用者に心のケアをしてもらっている」と感じることも多い。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメントに積極的に取り組んでいる。本人の生活の継続を重視しながら、個人個人のペースと意向を尊重し声がけをするが、決して強制しないことを申し合わせているので自由な生活がある。特に、受診は利用者にとって家族の支えあいを大切に利用者さんが安心できるように連携をとっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントはセンター方式で整理し、できるだけ多くの情報の収集と分析をこころがけている。介護計画は利用者、家族の要望や意見を聞き取り、職員や看護師等お互いに十分話し合いながら作成し家族の同意をとっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的には6ヶ月に一度、利用者、家族、担当職員を中心にケース会議で見直しをしている。急変や異常がある場合は随時見直しがなされている。日々の家族の意向の把握、介護記録の振り返りなども見直しの機会と捉えている。個別の介護記録の様式は介護計画に沿ったものに工夫されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状では家族や利用者の希望や状況を判断しながら、本体施設事業の利用の紹介につなげたり、自主サービスとしてはホームに空床ベッドがある場合、ショートステイの利用など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	半数が個人のかかりつけ医を持っている。かかりつけ医や施設の医師とは常駐の看護師が、家族と連絡をとって適切に往診や受診ができるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、家族、利用者の想いを日常から把握するように努力し、主治医と何度も話し合う場を設けている。看取りは家族の希望にあわせ納得のいくまで話し合いながら、職員が一丸となって取り組む体制をとっている。本体施設の看護師とも連携を密にしている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修を始め常に勉強会や自己啓発の場で学んでいる。大東10か条の中にも、個人情報の保護やプライバシーへの配慮があるが、特に羞恥心への配慮に関しては尊厳を重じている。ケースごとにトイレの形態や声がけの方法も異なるので、よく把握しながら対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズム、ペースは本人の自由意志を尊重している。個人の誕生日の過ごし方は本人の希望を取り入れている。散歩、買い物や外出、施設内での催しには強制にならないように心がけている。理美容院の利用や装飾品の好み、服装などその人らしさを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は雑談しながら、手際よく、利用者にお手伝いを促し、それぞれが盛り付け、配膳、下膳等役割分担を担って力を発揮している。手作りの野菜の収穫物を一品加えたり、食器や盛り付けの彩り等食欲を増す工夫をし、職員も同じものを食し楽しんでいる。タバコ・酒も嗜好に合わせて支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度者や退院してきた時は大きな浴槽を利用し、機械浴での対応が可能である。温泉気分が出るようにアロマなど雰囲気にかけている。利用者の健康状態や希望にあわせ、医務室と相談しながら夜間入浴(20時まで)を行なっている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季折々の行事や誕生会を有意義に活用し希望に応じている。各ユニットごとにお好み焼きやホットケーキ作りを楽しんだり、梅干、干し柿など手作りを大切にしている。また、紙芝居や、ハーモニカ、陶芸、手芸、園芸・野菜づくり、雑巾がけなど過去の生活を活かしながら、各自の生きがいを引き出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時はテラスや庭に出て外気に触れている。また、日常の買い物や外出の機会を増やし喫茶店に立ち寄るなど楽しみを増やしている。桜・菖蒲・ひまわりなどの鑑賞・大垣祭りなど季節の行事には全員で出かけている。月1回の演奏会や地域の運動会、発表会などは個別に希望を重視して応じている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は自動ドアで中からは手動開閉になっている。事務員が玄関正面の事務室に常駐し、時に介護職として利用者の行動を見守り気配りし外に出たい場合はいつでも応じている。1階、2階の各ユニットはすべてオープンなので、自由に行き来ができ、利用者の行動範囲は非常に広く利用者同士もおなじみが多い。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理委員会を中心に本体の施設や自治会の協力の下、年2回防災訓練を実施している。緊急時の連絡方法、消火栓や防災庫の確認、備蓄の確認、非常食の管理、誘導方法など勉強会で職員に周知している。スプリンクラーに関しては現在検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>看護師が常駐しているので、それぞれの病状に応じた食事の提供が即時できる。摂取量や水分量は利用者ごとに記録して体調管理しながら、食事の提供がなされている。1か月分カロリー計算された献立表を基に、主食と汁物はそれぞれのユニットの手作りとなっている。</p>		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれのユニットごとに工夫して作品を飾ったり、手作りのカレンダーや廊下に歌詞を貼るなど柔らかな雰囲気を保っている。また、生け花や花壇作り、畑など季節感を最大限活かすような気配りが感じられる。安全対策として浴槽には職員手作りの滑り止めをしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に働きかけ仏壇、じゅうたん、タンス、写真、趣味の書、時計など個性的な居室作りに努め、生活しやすさと落ち着きを提供している。また、本人の作品など居室や廊下に貼るなどして生活意欲を引き出し、生きがいにつなげている。本人が希望する場合は、ポータブルトイレを居室に備え付け、安心して生活できる環境に配慮している。</p>		